

東海道本線の運行管理システム取替に伴う旅客案内等の充実について

当社では、平成元年～16年にかけて在来線各線区（名松線を除く）に運行管理システム（CTC・PRC装置等）を整備しましたが、現在、このシステムの取替を順次実施しています。このたび、東海道本線（名古屋地区：新所原駅～米原駅間）の運行管理システムの取替が完了し、異常時の指令員の支援機能を改良したことに加え、お客様のご利用の多い駅の旅客案内設備について、順次切替を実施しますのでお知らせ致します。

1. 概要

(1) 旅客案内の充実（東海道本線名古屋地区の一部を除く27駅で実施）【別紙1】

- ① 発車標に列車毎の遅延時分表示を行います。
- ② 普通・快速列車について、発車標及び、自動放送による乗車位置案内を行います。
※27駅中17駅で実施
- ③ 指令からの情報を発車標の案内テロップに表示することを可能とし、異常時等における情報案内の充実を図ります。

(2) 運転規制発生時の支援機能の付加【別紙2】

風・雨等による運転規制時に列車を確実に停止させるため、運転規制発生と同時に自動で停止信号とするシステムとし、指令員の迅速かつ正確な対応が可能となりました。

(3) ダイヤ操作支援機能の付加、異常時対応訓練の充実【別紙2】

異常時に指令員が行うダイヤ変更操作を支援する機能を追加しました。また、あわせて訓練装置にシナリオ機能（設備障害、列車遅延など）を追加し、より実践的な訓練を行うことにより、指令員の異常時の対応能力の向上を図ります。

2. 工事費（概算）

約49億円（東海道本線 名古屋地区）

※工事着手：平成22年10月、CTC取替完了：平成26年9月

3. 使用開始時期

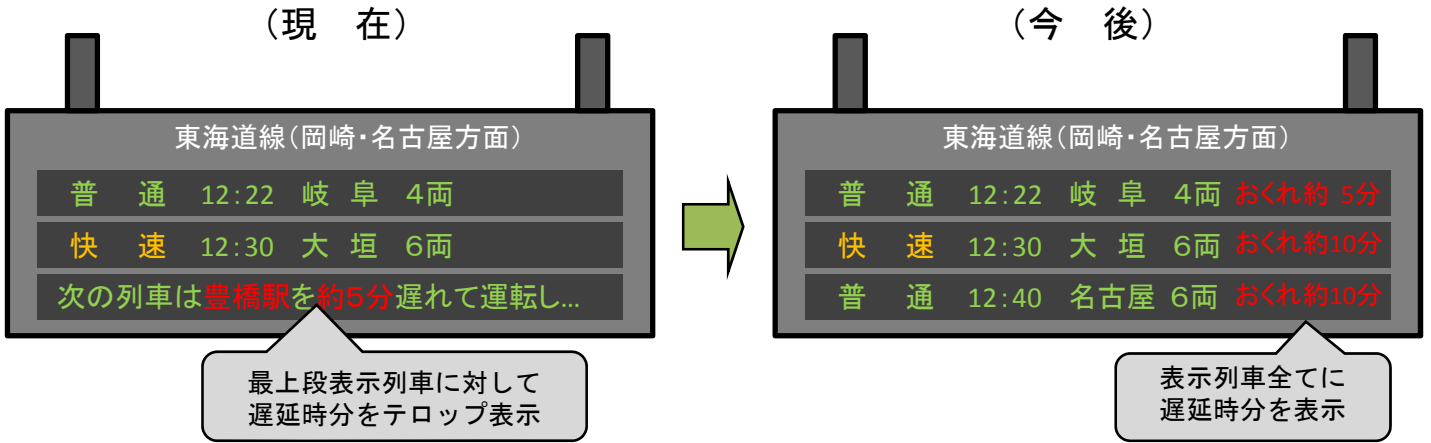
- (1) 旅客案内の充実 : 平成26年11月18日より順次
(乗車位置案内は平成27年春頃)
- (2) 運転規制発生時の支援機能 : 平成26年10月14日
- (3) ダイヤ操作支援、異常時訓練 : 平成26年10月14日

(1) 旅客案内の充実 (27駅※1)

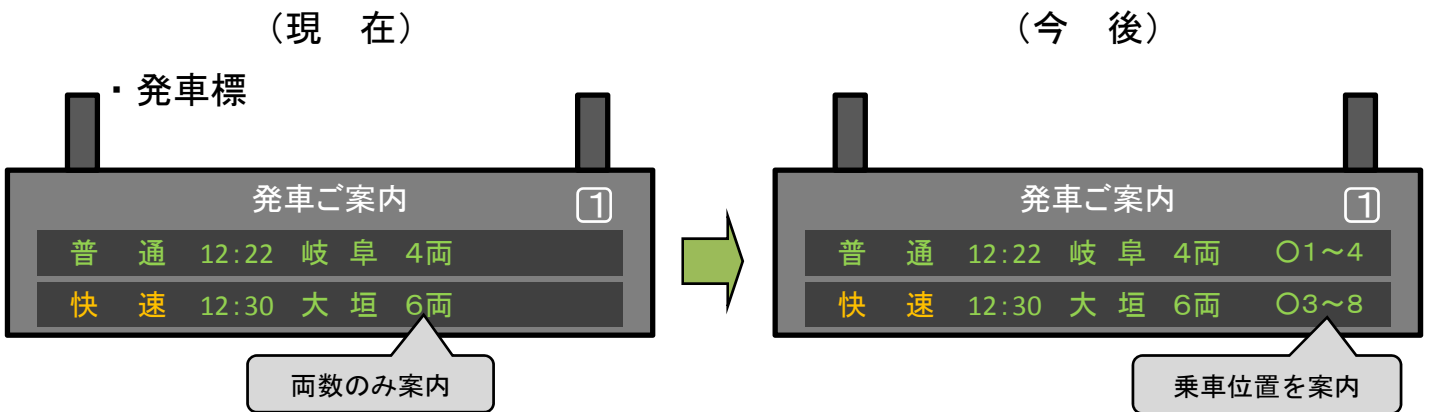
※1 ②は27駅中17駅で実施

※2 発車標：ホーム上及び改札上の電光掲示板

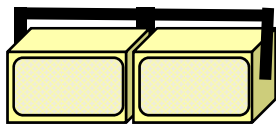
① 発車標※2での列車毎の遅延時分表示 (一部の発車標を除く)



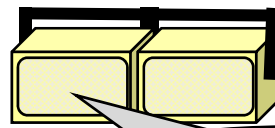
② 乗車位置案内 (一部の発車標を除く)



・ 自動放送装置

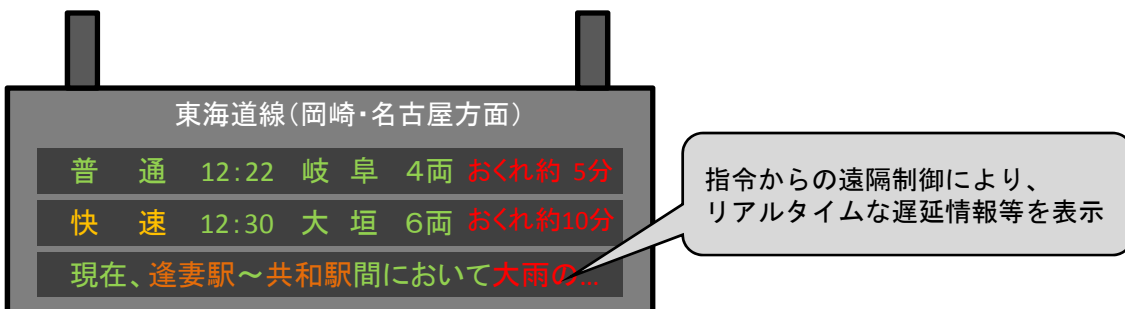


乗車位置案内なし



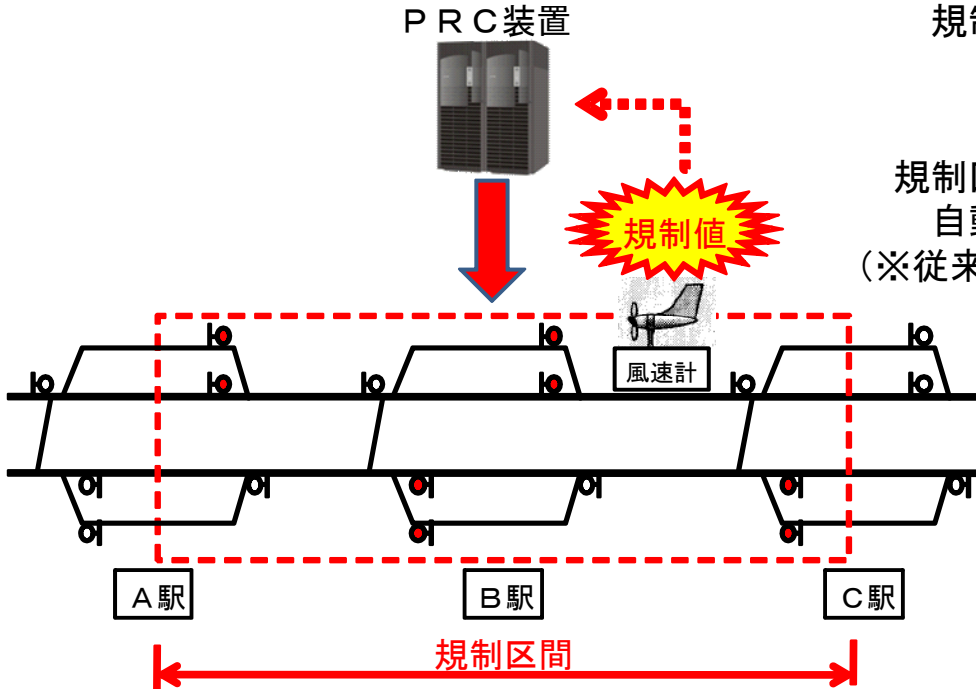
『乗車位置は○印の1番から4番です。』

③ 指令による発車標のテロップ表示



(2) 運転規制発生時の支援機能

《風規制時のイメージ》

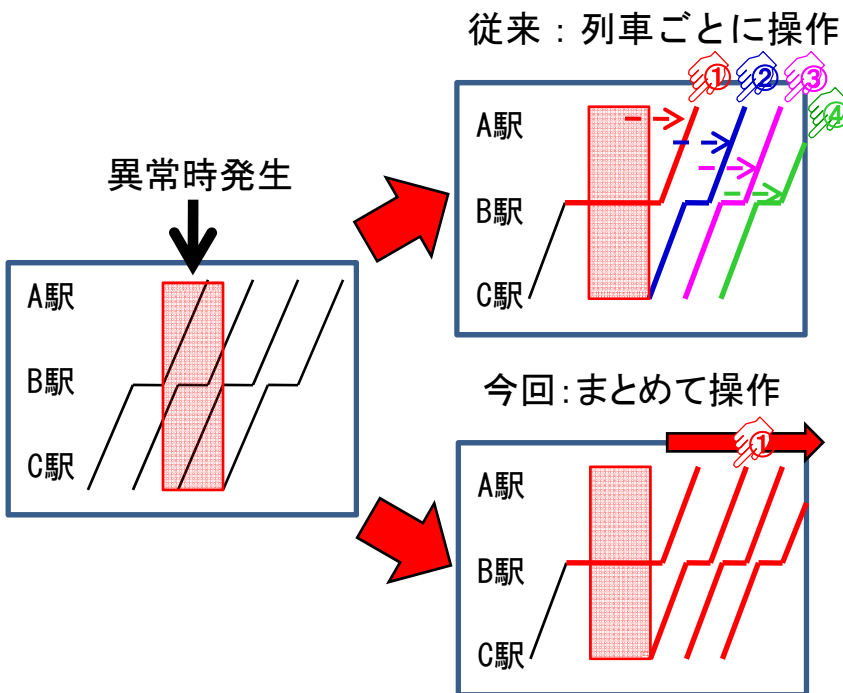


沿線風速計から
規制値超過情報を取得



規制区間内の関係信号機を
自動的に赤信号に変更
(※従来は指令員が手動で操作)

(3) ダイヤ操作支援機能・異常時対応訓練機能

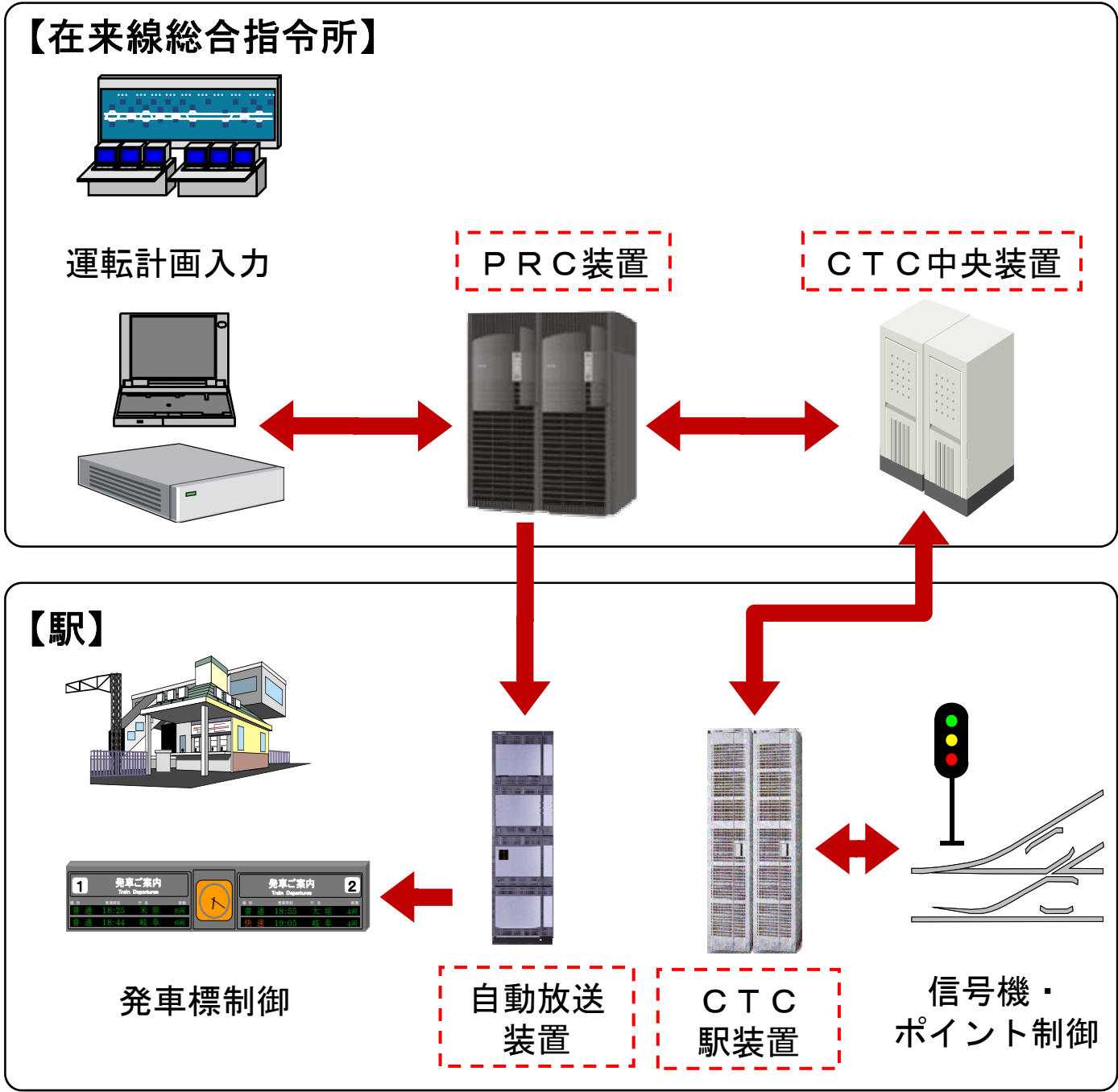


異常時対応訓練

異常時発生シナリオを
予め登録しておくことで、
訓練装置上で異常時を再現し、
より実践的な訓練を実現
(※従来は机上教育で実施)

ダイヤの変更操作を支援する機能を付加

今回の取替対象



CTC (Centralized Traffic Control) : 列車集中制御装置
・ 指令所で列車の運行を集中管理する装置。

PRC (Programmed Route Control) : 自動進路制御装置
・ CTC装置を介して、各駅の列車ごとの進路を自動制御する装置。